

平成28年度 長崎県立清峰高等学校学校関係者評価 報告

1 学校関係者評価委員

西尾 弘毅
里山 智恵
濱野 亙
松瀬 大高

2 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

- ・各項目とも全体的に高い評価がなされ、生徒も保護者も満足しているようで、清峰高校の教育の充実がうかがえる。
- ・3年生のアンケートは高い評価結果がでており、3年間の学校生活が充実していた結果であり、職員の努力のたまものである。
- ・「学校は悩みの相談にのってくれる」の評価がかなり低くなっている。一層の努力をお願いしたい。
- ・「学校では、丁寧で分かり易い授業が行われている」の項目も低い評価であり、難しいかもしれないが半数以上の生徒が「4」の高評価をするようにできないか。
- ・保護者アンケートは全般的に高評価になっている。「教育活動のPR」「教育目標と努力目標の説明」「施設設備の充実」が加工気味なのが気になる。
- ・職員による評価は全体的に高評価。「生徒の志望・学力の把握」「読書教育及び職員研修の充実」は下降傾向にあるので注意が必要。
- ・保護者のアンケートについては、質問項目の意味がわからないとか判断できないなどの声を聞く。また、文化祭や体育祭などの行事は目標が明確であるため達成感が高く評価も高いが、学習となると現状把握も困難であるし、ゴールが一人ひとり明確でないため評価が難しいのではないか。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

- ・学校の最大の目標は「学力をつけること」だと思う。「わかる授業」「できる授業」を目標に取り組み、「丁寧でわかりやすい授業が行われている」を半数以上の生徒が「4」の評価をするような授業改善を期待する。また、教職員の研修機会や時間を増やすことも大切。
- ・「問題行動などの生徒活動」や「学校は悩みの相談にのってくれる」の項目が低いようなので、相談しやすい環境作りと教育相談の充実が必要。また、教職員がもう少し時間がとれるような改善が必要と思う。
- ・学習面での取り組みの改善として、生徒に対しては学習の意味をまず伝え、保護者に対しては授業参観やプリントを通して現状を伝え、PTA活動を活発にして役員から保護者に呼びかけて課題や現状認識の共有をはかる。特に学校だけで解決できないことを理解してもらおうこと。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- ・各校務分掌の年間目標、重点目標は細部にわたっており適切である。
- ・「丁寧で分かり易い授業」「悩みの相談にのってくれる」が低評価なので、重点目標に入れて頂きたい。
- ・「読書指導の推進」「図書館の利用推進」「教科指導面の研修機会の充実」について改善を期待したい。
- ・教職員数が減少して多忙な中、よく適切に取り組んでいる。
- ・十分適当である。講演会や企業訪問など子供たちの世界を広げ、たくさんの選択肢を与えていることに共感した。

(4) 学校運営の改善に向けた実際の取組について

- ・各部の重点目標と具体的方策が明確に示されており、それに向けた取り組みはある程度達成されたと思う。
- ・行事等で見える生徒や先生方の姿は、生き生きさが感じられるが、内心では悩んでいる生徒もいるようなので、一人ひとりを見つめる取り組みをお願いしたい。
- ・全体的に適切な学校運営がなされている。
- ・保護者に対する取り組みが全てにおいて良かったとなっているので、今後ともよろしくお願いしたい。
- ・生徒のために適切な取り組みがされている。いつも生徒に向き合い未来のために力を尽くしている。人生を歩むサポートができる清峰高校であり続けてほしい。